

日本共産党中央委員会 御中

日本の政治戦線における御党の旺盛な活動に敬意を表します。

さて、日本 AALA 第 57 回大会を前に、御党が日本 AALA の会員や役員にさまざまな働きかけおこない、そのことで組織的な混乱が生じている事実が判明しました。三役会のなかにはこれは外部からの介入ではないかと懸念する声が少なからず上がっています。そこで私たちは、御党に「不当な介入」と疑われるような関与をただちにやめるよう申し入れるとともに、日本 AALA 三役との正式な話し合いに応じていただくよう求めることにしました。

御党の緒方副委員長は 10 月 15 日に、日本 AALA の一部の本部役員や県役員らを党本部に招いて会合を開きました。緒方氏はその席で、今回の問題の発端となった「共産党を考えるつどい」(4 月 25 日東京で開催)に参加した吉田代表理事と箱木事務局長の言動や、全国学者・研究者日本共産党後援会代表世話人でもある安斎育郎氏を講師に招いた日本 AALA の全国学習交流集会を「AALA の原則と団結を損なう」と一方的に断定。「これを容認して非民主的な運営をしている」日本 AALA 三役会も同様に責任があるとして、事実上の役員入れ替えと、準備されている大会議案の全面修正を求める発言を行い、出席者に同調を求めました。

また笠井幹部会委員が同日、千葉県 AALA の常任理事会に出席して同様の説明と要求を行いました。さらに同幹部会員は、10 月 18 日に日本共産党京都府委員会事務所に関西の一部の県 AALA 役員を集めて、同様の説明を行いました。これらは集められて会議に出席した参加者が明らかにした事実で、会合の際に配布された資料も判明しています。

さらに、田川国際委員会事務局長が、特定の AALA 会員に個別に電話して、上記の説明と要求をおこなっていることも、各地から報告されています。

御党は、従来、市民団体の自主的な活動を尊重する政策を表明してきました。また御党は日本 AALA の団体会員であり、これまで互いに組織の独立を尊重し合い、一致する目標で共同、協力の活動をおこなってきました。こうした関係のなかで日本 AALA から、組織として御党を攻撃したことは、これまで一切ありません。その党が日本 AALA との正式な話し合いを求めることなく、特定の役員を集めて何ゆえにこのような要求を行い、同調を求めるのか、まったく理解に苦しむところです。

このようなやり方がもし適切であると考えるのであれば、どのような基準にもとづいて特定の役員を集めたのか、またどこから得たどのような情報と根拠に基づいて三役会が「吉田、箱木両氏の言動を容認し、団結を損なって非民主的な運営をしている」と判断したのか、明らかにしていただきたい。また二人の言動が御党を誹謗するものというなら、党として二人にたいしてどのような対応をとったのか明かにしていただきたい。

日本 A A L A は、いかなる政党や外部組織からも独立した市民団体、統一戦線組織です。特定の政党への態度が、役員の適正、非適性をきめる基準とはなりえないし、どのような言動がその役員にふさわしいかふさわしくないかは、日本 AALA の会員が規約と目的に照らして判断することです。もし外部からの押し付けを容認して、役員人事や運動方針で特定の党の言いなりになることがあれば、その党とは関係をもたない他の多くの会員は、深刻な違和感をもつことでしょう。

日本 A A L A は、三役会の協議にもとづき、以上にのべた会員にたいする御党の不正常な働きかけをただちにやめるよう申し入れるとともに、正式の話合いに応じていただくよう重ねて求めます。

2025 年 10 月 28 日

代表理事 田中靖宏
代表理事 宮城恭子
代表理事 吉田万三

（なお野本代表理事は申し入れをすることに賛同しませんでした）

この申入れ文書をめぐって「私文書」「怪文書」などのコメントが拡散されているため、12 月 1 日に開催された 56 期第 29 回三役会議は、あらためて日本 A A L A の公式文書であることを確認しました。

2025 年 12 月 1 日

日本 A A L A 56 期第 29 回三役会議